

【宗祖法然上人御法語】

(第十二) 正 雜 二 行 しょうぞうにぎょう

1

それ すみ 速やかに 生 死 しょうじ を離れんと 欲 おも わば、二種の 勝 法 しょうぼう の 中 うち に、しばらく 聖 しょう 道 門 どうもん を 闔 さしお きて、選 えら びて浄土門に入れ。

さて、速 すみ やかに迷いの 境 涯 きょうがい を離れたいと願うならば、二種の 勝 すぐ た 教 しやう えの中で、ま ま ずは 聖 道 門 しょうどうもん をさしおいて、選 えら んで浄土門に入りなさい。

2

浄土門に入らんと 欲 おも わば、正 雜 二 行 しょうぞうにぎょう の 中 うち に、しばらく諸々の 雜 行 ぞうぎょう を 抛 なげ すてて、選 えら びて 正 行 しょうぎょう に 歸 き すべし。

浄土門に入ろうと願うならば、正 行 しょうぎょう と 雜 行 ぞうぎょう の 二 行 にぎょう の 中 うち では、ま ま ずは諸々の 雜 行 ぞうぎょう を 投 げ 打 っ て、選 えら んで 正 行 しょうぎょう を 抛 なげ りどころと さい。

3

正行しょうぎようを修しゆせんと欲おもわば、正助しょうじよに二業ごうの中に、なお助業じよごうをかたわらにらして、選しよびて正定しょうじようを専もはらにすべし。

正行しょうぎようを修めたいと思うならば、正業しょうごうと助業じよごうとの二業ごうの中では、やはり助業じよごうを脇わきに置き、選んでひたすら正定業しょうじようごうに励むみなさい。

4

正定しょうじようの業ごうというは、即ちこれ、仏みなの御名ごなを称するなり。

正定業しょうじようごうというのは、つまり阿弥陀仏みようごうの名号なごうを称えることです。

5

名を称すれば、必ず生まるることを得う。

名号みようごうを称えれば必ず浄土じよごうに生まれることができます。

6

仏の本願ほんがんに依るが故に。

阿弥陀仏あみだぶつの本願ほんがんによるからです。